

構想名 『学際性・国際性に秀で、体育、芸術分野を持つ総合大学としての独自性を活かし、
絶えず新たな学問分野を切り拓く研究大学の実現を目指した経営改革の加速化』

1. 研究力強化

強み及び独自性のある分野（睡眠、計算科学、生存ダイナミクス、AI、サイバニクス等）を一層強化し、絶えず新たな学問分野を創出

（教教分離を最大限活用した研究マネジメント）

【これまでの取組】

- ①リサーチユニット・重点研究センター等の研究フェーズに応じた制度の創設
- ②研究センターの再編（機能別・級別分類等）
- ③URA、オープンファシリティ等の研究支援体制の整備

【今後の取組】

- ①研究循環システムの構築（研究エコシステム化）
➢評価システムの確立による新陳代謝の活性化など
- ②研究組織マネジメントの構築
➢「世界展開研究拠点形成機構(仮称)」の創設
- ③研究支援資源の全学的活用を図る研究支援体制の構築 ➢「研究支援機構(仮称)」の創設

2. 人材育成

リベラルアーツとトランスファラブルスキルに関する教育を充実し、全学的な学位プログラム制により、グローバル人材を育成

【これまでの取組】

- ①大学院における国際連携専攻の設置
- ②学位プログラムの先行実施

【今後の取組】

- ①学位プログラム制への全面移行
- ②教育の質保証体制の構築
➢全学的な教学マネジメント機関の新設
- ③SF教育（仮称）、総合選抜の導入
➢「高等教育アクティブセンター(仮称)」の創設
- ④産業界・研究機関との協働大学院方式の拡充
- ⑤研究科以外の教育研究上の基本組織の整備（学校教育法第100条ただし書の適用）

3. イノベーション創出

「TSUKUBA」をSociety5.0の社会実装のための実験フィールドと位置付け、他機関を含む研究リソースを最大限活用し、オープンイノベーションを加速

【これまでの取組】

- ①全額民間資金による開発研究センターの創設
- ②企業人を直接雇用する特別共同研究事業制度の創設
- ③民間共同研究の大型化

【今後の取組】

- ①「組織」対「組織」連携促進に向けたオープンイノベーション機構の体制整備
➢産学連携拠点の拡大と統合運営（開発研究センター、特別共同研究事業の拡大）など
- ②産業を誘発する大学発ベンチャー創出に向けた制度改革
➢ストックオプション制度拡充と収入の基金運用化
- ③大学スポーツの改革を先導
➢「アスレチックデパートメント」の体制整備

4. ガバナンス・人事給与システム改革、財務基盤の強化

(1) ガバナンス改革

【これまでの取組】

- ①外部人材の活用（理事、学長特別補佐、経営協議会の活性化）
- ②学長リーダーシップによる戦略的な資源配分（人事・スペース再配分、組織評価に基づく資源再配分）

【今後の取組】

- ①広く学外の声を取り入れた大学経営
➢学長直属の「大学経営改革室」による経営基盤強化のための具体的戦略の策定（外部人材の活用、教職協働）
➢外部理事（産業界）の増員
- ②経営人材の育成

(2) 人事給与システム改革

【これまでの取組】

- ①教員人事制度改革（テニユアトラック制、ポイント制、混合給与、年俸制、教員抜擢昇任人事制度等の導入）
- ②戦略的教員配置の実施（全学戦略ポイント、戦略的分野拡充ポイント）

【今後の取組】

- ①戦略的教員配置の拡充・加速
- ②若手人材採用促進方策の実施

(3) 財務基盤の強化

【これまでの取組】

- ①経営力強化方策（外部資金獲得戦略、収益的事業の展開、人事戦略）の策定及び学内予算への反映
- ②自己収入の確保（クラウドファンディング、エクステンションプログラム、ネーミングライツの実施）など

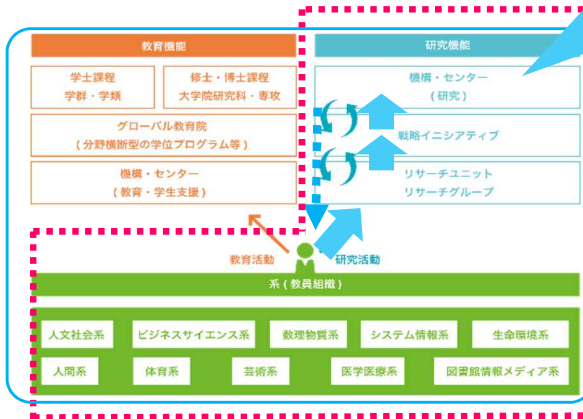
【今後の取組】

- 寄附金（基金）獲得体制の強化

【取組①】研究循環システムの構築

【概要】 本学の強み・特色に重点配分を行いつつ、新たな強み・特色を持続的に生み出すには、研究の成長ステージに応じた効果的な研究推進体制（**研究循環システム**）を構築することが必要である。**研究循環システムを構築し、本学の研究全体の新陳代謝（ターンオーバー）を活性化させる**一つの方策として、研究センターについては、R1（世界級研究拠点）、R2（全国級研究拠点）、R3（重点育成研究拠点）、R4（育成研究拠点）に**級別の認定を行い重点的かつ戦略的な資源配分を実施**している。本事業では今後、級別分類の評価システムを確立するとともに、**R1の計算科学研究センター及び生存ダイナミクス研究センター**について、**国際的な教育研究環境のさらなる強化**を図り、世界トップレベルの研究拠点に資する取組を行うことにより**改革の成果をさらに加速**させる。

＜筑波大学の教・教分離体制＞
※水色の矢印が「研究循環システム」を表す。



研究センターの評価システムの確立

※**期末評価時はもとより、中間評価時においても「より下位の級への分類または研究センターの廃止」を行うなど緊張感ある評価体制を構築**

- 各研究センターは5年毎に期末評価を実施(3年目に中間評価を実施)
- 初年度に各研究センターは以下の項目を記載した活動計画書を提出
「より上位の級にあがるためのロードマップ」、「予算計画」、「これまでの活動実績」、「これまでの活動実績を踏まえた「評価指標(KPI)」及び類似の研究組織とのベンチマークの設定」など
- 学長がトップの研究戦略イニシアティブ推進機構に外部の有識者を含む評価委員会を 設置し、評価を実施(書面、ヒアリング及び合議)



【取組②】アスレチック部門の体制整備

【概要】 大学スポーツの改革を目指し、産学官・国際・地域連携を通して研究開発してきた成果を活かし、**国立大学で初めてアスレチック部門を本年4月に設置したところである**。本事業ではアスレチック部門の取組を加速化し、**我が国のモデルケースを開発・展開し、日本版NCAAの創設を支援する**。

筑波大学は2018年4月より、大学スポーツが持つ価値を最大化し、より安心・安全に、学業とスポーツの両立を実現させ、大学のブランディングを高めるための組織として「アスレチック部門(AD)」を設置。

Vision : 筑波大学がモデルとなり「日本の大学スポーツを変革すること」

- ① 安全・安心の徹底
- ② 学業の充実
- ③ チーム強化

④ 発信：「学内」「行政」「企業」「地域」「メディア」との繋がりを拡大。
大学スポーツの「見本」となる取り組みとして広報を急拡大させていく。



【取組③】筑波大学の将来構想の策定

【概要】外部人材を活用した学長直属の「大学経営改革室」を本年4月に設置したところであり、経営基盤強化のための具体的戦略の策定を進める。本事業では、**大学経営改革室の外部人材の強化と海外調査の充実を図ること**により、**10年先を見据え、世界の有力大学と伍していくための将来構想を策定**する。

◆組織図



◆構成員

室長、副学長及び教職員、
学外有識者

◇担当事務組織:企画評価室



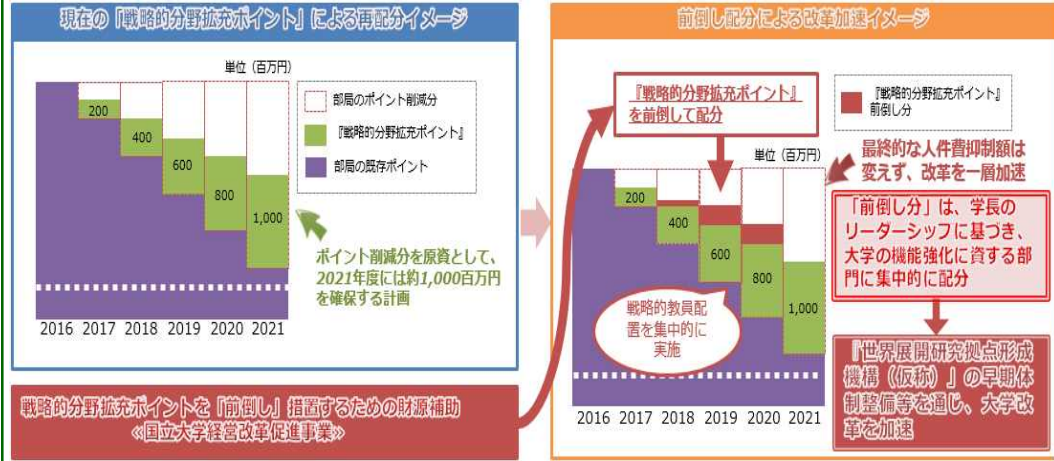
ミッション

- 大学政策動向等を踏まえた上で、将来の経営基盤強化のための具体的な戦略を検討し、その是非について提言すること。
- 戦略の実現のためのロードマップを作成すること。
- その他学長が命ずる事項

平成30年度	平成31年度	平成32年度～
・大学経営改革室設置 ・経営基盤強化のための具体的な戦略の検討・提言(中間報告)	・経営基盤強化のための具体的な戦略の検討・提言(最終報告) ・戦略の実現のためのロードマップ作成	・提言した戦略の実行

【取組④】戦略的人的資源配分による機能強化

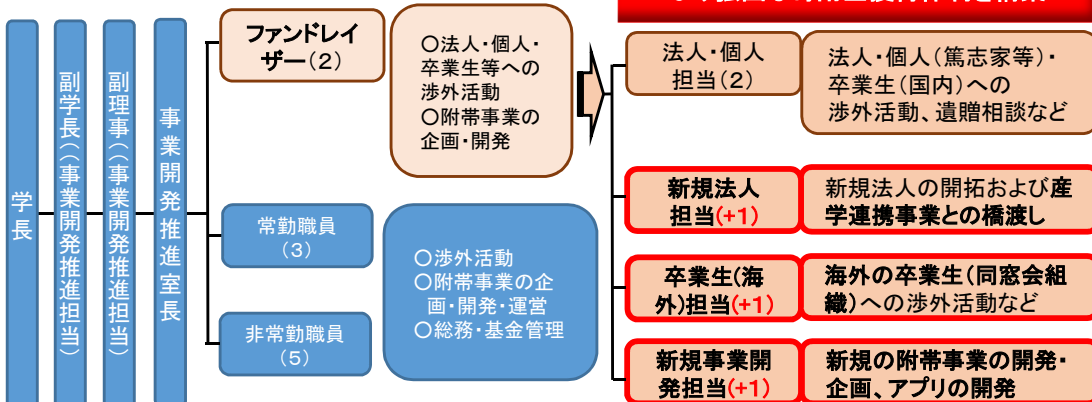
【概要】戦略的人的資源配分を一層加速するため、人件費の抑制を図りつつ、
学長のリーダーシップにより戦略的に**本学の強み・特色である分野に人員配置するための枠組みである「戦略的分野拡充ポイント」を拡充・加速化し、研究マネジメント体制の機能強化を図る。**



【取組⑤】寄附金(基金)獲得体制の強化

【概要】寄附金獲得体制を強化し、本学の**研究内容や知財関連の情報**を兼ね備えた**渉外活動を実施**することで**産学連携事業の橋渡しを行う**ほか、**海外の卒業生への渉外活動や附帯事業の開発・企画事業を強化し、多様な財源の充実**を図る。

【渉外活動体制】



現在の主な附帯事業

- 【カード事業】
- 【ワイン事業】
- 【コーヒー事業】
- 【スポーツメーカーとの連携事業】

安定収入の確保

University of Tsukuba × Crowdfunding
筑波大学 × クラウドファンディング

Supported by Readyfor

◆国立大学で初めてクラウドファンディング事業者とのオフィシャル契約を締結

産学連携事業との連携

海外同窓会組織との連携

新規事業開発

【スマートフォンアプリの開発】

【その他、寄附収入に繋がる新規附帯事業の開発】

外部資金獲得への貢献および寄附金獲得の強化

海外からの寄附金獲得の強化

新規事業開発及び事業の拡大